

令和4年度 学校評価自己評価書（豊山町立志水小学校）

経営理念	学校教育目標 … 力いっぱいがんばる子の育成
	めざす児童像 … 進んで学ぶ子 仲よく助け合う子 元気でたくましい子
	めざす教職員像 … 子どもを大切にする教職員 学び続ける教職員 協働する教職員

資料1

【評価基準】4…十分達成できた、3…ほぼ達成できた、2…あまり達成できなかった、1…全く達成できなかった									
経営目標	重点目標	班	担当	具体的な取組	評価項目	項目別評価	達成状況	改善に向けて	
○進んで学ぶ子（確かな学力）の育成	・学習習慣の確立と基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得 ・自己教育力を培う役割を担う学校図書館の活用	1	佐野伊藤 藤井大野瀬	① 授業や朝の学習タイムでの基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得の指導を工夫する。 ② ばっちりメニューやわくわくメニューを通して、家庭での学習習慣を確立させる。 ③ 基礎学力の定着を図るための漢字・計算コンクールを実施し、児童の自己学習力を高め、個に応じた指導に生かす。 ④ 朝の読書や読書週間を設け、たくさんの本や多様な分野の本に親しむよう指導する。 ⑤ 調べ学習等で、図書室や学習室の図書を活用した指導を行う。	① 授業や朝の学習タイムでの基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得の指導を工夫したか。 ② ばっちりメニューやわくわくメニューを通して、個に応じた家庭学習の習慣づけができたか。 ③ 漢字・計算コンクールを実施して、基礎学力の確認をし、個に応じた指導を行ったか。 ④ 朝の読書や読書週間を通して、たくさんの本を読むように指導したか。 ⑤ 調べ学習等で、図書室や学習室を活用した指導をしたか。	児童 ① 3. 3 ② 3. 3 ③ 3. 5 ④ 3. 1 ⑤ 2. 6 保護者 ①③ 3. 1 ② 2. 6 職員 ① 3. 1 ② 3. 1 ③ 3. 3 ④ 3. 3 ⑤ 2. 7	おおむね基礎的・基本的な学力の定着にむけて、取り組むことができている。 家庭学習に対する保護者の評価が低かった。 漢字・計算コンクールの意義・目的を学校全体で確認し、基礎基本に絞った内容で実施を行った。多くの児童が漢字・計算コンクールに向けてがんばって取り組んでおり、児童の学習意欲の向上につながったと考えられる。 【参考】金賞（95点以上）…漢字119/283名・計算 89/283名 銀賞（90点以上）…漢字 50/283名・計算 51/283名 銅賞（80点以上）…漢字 29/283名・計算 44/283名 受賞者…漢字198/283名（約70%） 計算184/283名（約65%） 多くの児童が多くの本を読むことができたと回答した。 【参考】読書ビンゴを達成した児童の割合 48% わくわくボックスを利用した児童の割合 38% 多読賞（1月末まで）…140名程度/283名	家庭学習でのばっちりメニューやわくわくメニューの取組の様子は、経験を重ねていくことで質の高まりを感じてきている。特に、6年生の取組は、充実したものとなってきており、振り返りについても、自分の言葉でできるようになってきた。長い目で成長を見守っていきたい。ホームページ等で定期的に保護者に知らせるとよい。また、手本となるような児童の自主学习ノートの取り組みをクラスで共有し、児童の学習意欲向上につなげたい。 1週間に1回は図書室で本を借りるような取組を担当が工夫してほしい。 図書室の本を使った調べ学習を行う単元の学習では、図書のフォルダにある「授業に関する本の一覧表」を確認し、活用していけるとよい。	
	・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ※「聴き合い、学び合う」活動 ※「つなぐ」「もどす」ことで対話をつくる教師の役割 ※自己選択や振り返りの場のある授業 ※思考や表現のツールとしての情報端末の活用	2	辻福重 齋鷺澤	① 「分からないから教えて」と言える学級作りを基盤に、考えを聴き合う場の設定をする。 ② 児童の小さな気付きや発言等を学級全体につないだり、児童の発言をもとに学級全体に問い返したりするなど、対話をつくり思考を深めるための教師の指導言を工夫する。 ③ 主体的な学びをつくるために、自己選択する場、学びを振り返る場を設ける。 ④ 各教科等の課題や目的に応じて、情報端末を思考や表現のツールとして活用する。	① 学びの質を高めるような働きかけを教師が行うことができたか。 ② 分からないことを聴いたり、考えを伝え合ったりする場を設定することができたか。 ③ 児童の気付きや発言等をクラス全体につないだり、前時までの学習をつないだりする授業を行うことができたか。 ④ 自己選択や振り返りをする場を指導過程に設定することができたか。 ⑤ 思考や表現のツールとして情報端末を有効的に活用できたか。	児童 ① 3. 4 ② 3. 4 職員 ① 3. 1 ② 3. 0 ③ 3. 1 ③ 3. 2 ④ 2. 9	考えを聴き合う場の設定は、おおむねできている。 自己選択する場面を設定することは、おおむねできている。自分で選ぶことで意欲をもっととりくめるように日々の小さな自己選択をすることが重要。 「思考や表現のツールとして、I C T機器を有効的に活用できたか」の教員評価は2. 9と少々低く、I C T機器を表現ツールとしては利用できているが思考ツールとしては利用できていないと考えられる。	主体的な学びの実現に向けて、授業や単元の終わりににおける振り返りを実施しているが、時間がなく実施できないことが多々あった。今後は、振り返りの時間を大切にしていきたい。学年に応じた振り返りの仕方を工夫し、継続していくことが大切である。 I C Tを利用することが目的となってしまうまいように、学びをすすめる児童の姿を具体的にイメージし、I C Tを活用できる内容であれば、活用していくようにしていきたい。	
○仲よく助け合う子（豊かな心）の育成	・多面的・多角的に考えて議論する道徳科の充実 ※自我関与させる発問の工夫	3	伊藤宮外 佐藤	① ねらいとする道徳的価値について教材研究を以下の視点で行う。 ・ねらいとする道徳的価値をさまざまな面から捉える ・ねらいとする道徳的価値を支えるさまざまな根拠を考える ・さまざまな登場人物の立場で考える ・人間の強さや弱さを捉えて考える ② 自分の体験や感じ方、考え方を言語化するためのワークシートや役割演技等を工夫する。 ③ さまざまな見方やさまざまな角度からの考えを交流し、話し合いを深める学習活動を行わせる。 ④ 自己を見つめ、これからの生き方に生かしていくことを見通せる場を設ける。	① ねらいとする道徳的価値について教材研究を行ったか。 ② 自分の体験や感じ方、考え方を言語化するためのワークシートや役割演技等を工夫したか。 ③ さまざまな見方やさまざまな角度からの考えを交流し、話し合いを深める学習活動を行わせたか。 ④ 自己を見つめ、これからの生き方に生かしていくことを見通せる場を設けたか。	児童 ② 3. 1 ③ 3. 6 ④ 3. 5 職員 ① 2. 9 ② 2. 9 ③ 2. 9 ④ 2. 7	授業の流れは押さえられているが、ねらいとする道徳的価値にせまるための教材研究には課題が残る。 考えの交流については、児童の評価が高く、話し合いにより児童の学びが深まっていることが分かる。 自己を見つめこれからの生き方に生かしていくことについて、児童の評価は高いが、教職員の評価が低い。授業で学んだことを実際の生活に生かしていこうと思えるような発問などの工夫が足りないと感じている教師が多い。	教員同士が道徳の授業を共有するために、板書をロイロノートに共有することもよいと考える。 デジタル教科書に掲載されているワークシートの発問を変えたり、裏の空いているところに発問を加えたりして、教師自身が吟味して工夫する必要がある。 児童が道徳での学びを「自分事」として考えていくために、発問や展開を工夫していきたい。行動に移せるように、生活の中での具体的な場面を思い起こす時間があってもよいと考える。 外部講師による道徳の研修を1学期に行う。	
	・互いのよさや可能性を発揮し、自己有用感を育む児童主体の活動の実施 ※児童会活動や縦割り班活動の充実 具体的な取組	4	角辻 松原	① 企画運営委員会・生活委員会を中心に、異学年交流の全体集会を企画・運営し、縦のつながりが深まる活動を工夫する。 ② 縦割り班を編成し、清掃や集会、読み聞かせ等の活動を行い、高学年に役割をもたせる。 ③ 縦割り清掃の反省会では、掃除を通してお互いを認め合う活動を取り入れる。 ④ 縦割り班の6年生に対する感謝の気持ちをメッセージカードに書き、掲示する。 ⑤ 1年生と6年生ペアなど、異学年での交流を行う。	①⑤ 集会や行事、縦割り班活動等を通して、異学年との心のつながりをもたせられたか。 ②③ 集会や行事、縦割り班活動等を通して、児童の自己有用感を高めることができたか。 ④ 日常生活や縦割り班の活動、縦割り班の6年生に対する感謝の気持ちをメッセージに書き、思いやりや感謝の心を育むことができたか。	児童 ①⑤ 3. 4 ③ 3. 2 ②③ 3. 3 職員 ①⑤ 3. 4 ②③ 3. 0 ④ 3. 2	集会や行事、縦割り班活動のみならず、授業においても異学年交流の機会を多くもつことができた。上級生が下級生に運動や遊びを教えたり、発表を見せたりすることで、上級生は自己有用感を高め、下級生は親しみや憧れをもつことができた。 児童の自己有用感を高めることができたかについては、教師の評価が低くなっている。縦割り班活動を行う中で働きかけはしているが、やり切れていないと感じたり、異学年交流をもっと行いたいと思っているができていないという思いがあるからであろう。 【参考】縦割り清掃実施状況 週2日 縦割り班を活用した取組 ・なかよし集会（7・12月） ・縦割り班遊び（6・11・3月） ・縦割り縄跳び（11/25・28・29） 異学年交流を行った授業 ・遊具の使い方、遊びを提案しよう（6年・1年） ・縄跳び（5年・2年）・ダンス（4年・3年） ・ソーラン節、修学旅行発表（6年・5年） ・音読劇発表（2年・1年） ・読み聞かせ（3年・1年）	縦割り班清掃の反省会のあり方について改善したい。 集会や行事、縦割り班活動、交流授業の後に、振り返りの機会をもつと、より達成感を得ることができるのではないかと。 今後も、年2回のなかよし集会で縦割り班を活用した内容にするとうい。	
	・気持ちのよいあいさつ、返事の励行 ・児童の心に寄り添った多様な教育相談活動の実施		藤井良 伏見中村	① 『あいさつウィーク』を年3回設けて、挨拶を意識させる期間を設ける。『あいさつビンゴ』を月1回程度行い、挨拶への意欲を高める。 ② 学校外で保護者や地域の方にも挨拶ができるよう、学級・学年で継続的に指導をする。 ③ 教職員は1人でも多くの児童の名前と顔を一致させ、児童の安心感を高めるとともに、いじめなどの問題が児童から訴えやすい環境を学校全体で作る。 ④ いじめに関するアンケートや教育相談、チャンス面談の実施やあのねボックスを設置する。児童の不安感や困り感を教職員が把握し、いじめや不登校を未然に防止するために活用していく。 ⑤ 担任は、1日の生活の中でクラスの児童全員と言葉のやり取りをする。担任以外は、あいさつ等を通して児童とのコミュニケーションを図る。 ⑥ 保護者との連絡を密にし、家庭と学校の共通理解に努める。また、家庭と連絡を取った内容は学校や学年で情報を共有する。 ⑦ 毎朝「心の天気」を入力させ、自身の心の健康を意識させるとともに、児童の様子を把握する一助とする。	①② 児童は、進んで挨拶・会釈をすることができたか。 ④⑥ 児童や保護者が安心できる環境を作ることができたか。 ③⑤⑦ 毎日、児童とコミュニケーションを取ることができたか。	児童 ①② 3. 4 ① 3. 5 ③④⑤ 3. 5 保護者 ①② 3. 0 ③④⑤⑥ 3. 3 職員 ①② 3. 5 ③ 3. 5 ④ 3. 6 ⑤ 3. 6 ⑥ 3. 6 ⑦ 2. 6	あいさつについて、児童の自己評価はおおむねよい結果になっているが、あいさつビンゴで3回とも8列ビンゴを達成した児童の割合は2学期も33%とよくできているとはいえない。保護者の結果を見ても、家庭や地域であまりあいさつができていないようである。 心の天気について、取り組む時間のなさからであると思うが、低学年で心の天気を活用している学級が少なかった。 【参考】あいさつビンゴの取り組み 8列全てビンゴした児童の人数 1学期…74名（全校の26%） 2学期…96名（全校の33%） 心の天気の取り組み 8学級（全校57%） あのねBOX相談件数 S Cに相談…20件 その他（担任以外）に相談…3件（養護3件）	あいさつについては、家庭や地域でもあいさつが増やせるように、元気アップカードと少し時期をずらして、家庭版あいさつビンゴカードのような保護者と児童が互いにあいさつを意識できるような取り組みを行うと、学校外での児童のあいさつの様子が把握できると感じた。 心の天気については、朝、児童の心の状態を把握できるので、何とか朝の会などで時間を使って天気だけでも記入ができないか検討する。登校したらタブレット端末を保管庫から取り出し、帰るまで机の中に入れておくようにする。また、担任以外も児童の心の天気をチェックし、情報を共有する。	
○元気でたくましい子（健やかな体）の育成	・いじめ・不登校の未然防止と早期発見・早期対応	5							

【評価基準】4…十分達成できた、3…ほぼ達成できた、2…あまり達成できなかった、1…全く達成できなかった									
経営目標	重点目標	班	担当	具体的な取組	評価項目	項目別評価	達成状況	改善に向けて	
○元気でたくましい子（健やかな体）の育成	・健康な生活習慣づくりと食育の推進 ・体育的な行事・活動の充実	6	宮外伏見 舘野	① 身体測定や保健の授業において、心の健康に関する指導を継続して行い、ストレスの対処能力の向上を図る。 ② 元気アップカードや食育指導を通して、規則正しい生活習慣とバランスのよい食習慣の定着を図る。 ③ 運動会を企画し、心身の健全な発達や健康の保持増進などについての関心を高め、安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するような活動を行う。ランニングカードを活用して、志水っ子ランニングや休み時間、体育の授業を行い、運動習慣の定着を図る。 ④ なわとび運動を実施する。また、なわとびカードを活用する。 ⑤ 運動会を企画し、心身の健全な発達や健康の保持増進などについての関心を高め、安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するような活動を行う。	① 90%以上の児童が自分に合ったストレス対処法をもつことができたか（3～6年）。 ② 元気アップカードや食育指導を通して、バランスよく食事をとることができたか。 ③ 学級や学年、全校児童で協力して、規律のある行動をしたり、積極的に運動に親しんだりすることができたか。 ④ ランニングががんばりカードを通して、進んで運動に親しむことができたか。全校児童がランニングカード1枚目を走破できたか。 ⑤ 自分で決めたなわとびカードの目標を達成することができたか。	児童 ④①3. 3 ②③. 2 ②③. 3 ③④⑤③. 4 ④③. 0 ⑤③. 7 保護者 ①②. 9 ②②. 9 ②③. 0 ③③. 7 職員 ①③. 1 ②②. 8 ③②. 8 ④②. 9 ⑥③. 3	1月に4～6年生を対象に行った、「からだどこころのアンケート」では、「つらい気持ちを小さくする方法を知っている」に85.1%の児童があてはまると回答した。しかし、今回のアンケートでは保護者アンケートの結果が低く、家庭では実践していない児童が24%いた。 生活習慣について、元気アップカードのミニメディアデーの取組では、61.1%の児童が1週間のうち1日だけ、平日のメディア利用の時間を30分以内にできた。しかし、今回の調査では「規則正しい生活習慣を意識して生活できている」と回答した保護者の評価が他の項目に比べて低かった。 栄養バランスについて、元気アップカードの期間中に、朝食で主食ともう一品を7日間食べることができた児童は、4月よりも1.5%上昇し、72.1%であった。 積極的に運動に親しむことできたと答えた児童は3. 4とあるように、よい達成状況だった。少し期間が長くなってしまい、期間の後半には、児童の取り組みが少なくなってしまう。ランニングカードは、途中経過としてはよい達成状況だと思われる。また、なわとびカードは、途中経過としては非常に良い達成状況だと思われる。 【参考】心のアンケート ストレスの対処法 (85.1%) 元気アップカード ミニメディアデー (61.1%) バランスのよい食事 (72.1%) ランニングカード・なわとびカード (2月末までの取組のため、年度末に集計)	アンケート結果から、日々のストレスを家庭で解放できているとも考えられる。次回行う際は、児童と職員用のアンケートで実際にストレス対処ができているかという調査を行いたい。 生活習慣について、今回の調査では「規則正しい生活習慣を意識して生活できている」と回答した保護者の評価が他の項目に比べて低かった。メディアとの関わり方については、睡眠時間の確保にもつながるため、家庭と学校が協力して支援していけるように、学級懇談会などで取り上げて啓発していきたい。 栄養バランスについて、今後は、栄養教諭とも連携して食育を行っていきたい。 学習指導要領を基に、次年度は、なわとび運動とランニング運動のカードの実施期間をもう少し短くしていく。 次年度はアンケートではなく、なわとびカードの集計のみで評価していく。 ランニング、なわとびともに、今後とも休み時間などにも積極的に取り組むよう声掛けしていく。	
○開かれた信頼される学校づくり	・地域のボランティア、ゲストティーチャーの意図的・計画的な活用と教育的効果の検証 ・家庭や地域の声を生かした有効な学校評価の実施と学校改善 ・学校公開の充実とホームページ、学年だより等を活用した情報発信	7	教頭 折戸	① 教科の学習内容に沿った出前講座、地域や家庭のボランティアの活用等の計画を立てる。 ② 事前打合せを行い、本時のねらいを明確にするとともに、事後の評価をし次年度への記録を残す。 ③ 前年度実施アンケートの意見を生かすとともに、学校教育目標・重点目標に基づき、具体的な取組を計画的に行う。 ④ 自己評価書を公開し、学校評議員会・学校関係者評価委員会での意見を反映して評価結果をまとめる。次年度に向けた改善方策を全教職員で具体的に検討する機会を設ける。 ⑤ 地域や保護者の方が学校を訪れる機会を状況に応じて設け、授業の様子を公開する。 ⑥ 学年便りや保健便りを月1回、必要に応じてその他の便り等を発行し、学校の取組について情報発信をする。ホームページを随時更新し、児童の様子を知らせる。	① 地域や外部ボランティア、ゲストティーチャーを活用することにより、学習内容の充実が図れたか。 ② 本時のねらいを明確にするとともに、事後評価し次年度に向けて記録を残したか。 ③ 学校評価の取組を計画的に行い、学校教育目標・重点目標に基づいた「具体的な取組」について実践することができたか。 ④ 全職員で具体的に検討して、自己評価書をまとめることができたか。 ⑤ 地域や保護者の方に、学校公開を行うことができたか。 ⑥ ホームページや便りを活用し、学校の取組や児童の様子を知らせることができたか。	保護者 ④②. 0 ⑤⑥③. 1 職員 ①③. 1 ②②. 8 ③②. 8 ④②. 9 ⑥③. 3	今年度は、外部講師を招いての出前講座を実施することでできるようになってきて、児童は出前講座等により学習が深まったと感じている。 【出前講座】 1～3年（学校保健委員会「食育Go o」）、2年（山村氏による読み聞かせ）、3年（自転車教室・人権教室・読み聞かせ）4年（版画指導・福祉実践教室）、5・6年（保護者による仕事の話）、6年（租税教室・琴教室・薬物乱用防止教室）、4～6年（情報モラル教室）、全学年（読み聞かせ・どんぐり読書会） 各種便りや学校新聞、ホームページ等を通して、子どもの様子や学校の取組を発信することができた。 重点目標や具体的な取組を意識して教育活動に取り組んでいると回答した職員は昨年度より増えている。 今年度は、運動会、作品展・授業参観を実施し、学校公開ができたこともあり、保護者に学校の様子を直に見ていただくことができた。 【参考】学年だより 年13回発行 保健だより 年15回発行 校長室だより年12回発行 ホームページ記事数 291件（2月16日現在）	「出前講座一覧表」に、次年度に向けての評価を記録し引き継いでいきたい。 本年度も、PTA総会・学年懇談会が中止となったため、保護者に本校の教育目標及び重点目標を直接伝えることができなかったため、学年だよりなどで「進んで学ぶ子」を育む取組と子どもの学ぶ姿を紹介してきた。保護者に理解が得られるようにより充実していきたい。 来年度も、班別会議日を設け、取組内容の見直しを図るなど、教育活動をより充実したものとしていきたい。 学級経営案を作成するにあたり、重点目標に基づいた「具体的な取組」について意見交流を図る。更に、学期ごとに学級経営について振り返り、次学期に向けての方針・改善点を考える。 出前授業は、来年度も感染拡大防止対策をとりながら、工夫して実施していきたい。	
○教職員の資質向上	・OJTによる効果的・効率的な研修 ・現職研修の充実と教員同士の授業参観による主体的交流	8	驚澤 折戸	① 学年間や担当者間で情報を共有することを大切にし、若手教員が相談しやすい環境を整え、児童への指導やさまざまな取組に生かす。 ② 授業研究を計画に沿って行うとともに、他学級の授業を参観する機会を自ら設ける。 ③ 各部会で研究授業を実施し、指導案を基にICTの活用や授業における工夫、評価方法等を共有し、自らの資質・能力の向上を図る。	① 学年間や担当者間で情報を共有し、よりよい学校づくりに向けた取組を考え、実践することができたか。 ② 授業研究を計画に沿って行い、授業力向上のため、他学級の授業を参観する機会を設けることができたか。 ③ 各部会で研究授業を実施し、指導案を基にICTの活用や授業における対話を生み出す工夫（「つなぐ」「もどす」など）、評価方法等を共有し、自らの資質・能力の向上を図ることができたか。	職員 ①③. 3 ②③. 0 ③②. 8	学年間や担当者間での情報交換は、日頃から行われている。さまざまな取組は、簡素化したり、別の内容に変更したりし感染症対策を講じて、実践することができた。 研究授業以外でも、多くの教員が他学級の授業を参観する機会をもった。 【参考】学期に2回以上の参観…7名 学期に1回の参観…6名 年間1～2回…5名 ICTの活用や対話を生み出す工夫を意識して授業実践に取り組むことができた。しかし、自身の取組を他の教員と共有することが十分でなかった。 【参考】実践の共有…2名 授業改善…11名 授業参観…4名	来年度は、授業研究以外に学期に1回以上は参観を行うような取組を考えていきたい。 思考ツールについて、シンキングツールの活用方法・先進校の情報や研修会の情報を教職員に知らせていく。	
○業務改善に向けた職場環境の整備	・さまざまな課題に対して協力し合える体制づくり ・業務の精選 ※評価項目については勤務時間管理の状況等を含む	9	校長 山田	① 「学校」が有する仕事を明確にし、適正に分担する。日々のコミュニケーションを大切にし、困っていることがあれば共有し協力して対応する。 ② 報告・連絡・相談を、学年間、担当者間等で確実に行之い、共通理解の下、チームで事にあたる。 ③ 業務精選について考え、できることから順次実行し、在校時間の削減を図る。毎月、在校時間の確認を行う。月2回程度の定時退校日を設ける。	① 協力し合える体制が築けたか。 ② 報告・連絡・相談体制が機能し、チームで事にあたることができたか。 ③ 各自で在校時間を管理できたか。業務の精選が進み、在校時間を削減することができたか。	職員 ①③. 6 ②③. 7 ③③. 5 ④③. 2	校務分掌で困ったことがあったときに相談できたという実感をもてた職員は多くいたが、学級・学年については、相談できなかったという職員が数名いた。 報告、連絡、相談体制が機能しているかについては、昨年度の3. 2から3. 5へ微増した。生徒指導全体会で対話できる時間を設けるなどの会議のもち方の工夫があった。また、職員一人一人が職員間のコミュニケーションを大切にしている雰囲気を感じられた。 常勤の職員20名については全員、毎月の在校時間状況記録の提出ができた。月45時間以上の超過勤務は、4月10名・5月7名・6月12名・7月1名・9月6名・10月6名・11月8名・12月1名・8月1月は0。数年前に比べて、100時間超がかなり減り、10月1名のみ。退校時刻を決める「かえるボード」はおおむね活用されてはいるが、決めた時刻に帰っていない職員も多い。	経験の浅い教員を職場全体で支え、共に学び成長する職員集団を目指し、会議のあり方や日常の報告・連絡・相談をこまめに行っていききたい。 コロナ禍で削減されたさまざまな活動をどのように復活・実施していくのが令和5年度の大きな課題である。子どもの成長を軸に見直しを進めたい。 職員会議の要項（PDF）をロイロノートに保管し、教室での指導に生かせるように合理化を図る。	
学校関係者評価（その他の意見・改善策等）									
<学習面について> ・保護者の評価は低い、調べ学習はよい取組だと思うので、継続して高めてほしい。 ・「分からないから教えて」と質問するのはとても大切でよいこと。今後も子どもたちのそのような姿を伸ばしてほしい。 ・自己選択の場を設定しているのはよいことだと思う。家庭でも取り入れたい。 ・出前授業は、子どもたちも楽しみにしているのにより充実させてほしい。 ・道徳科の充実について教員の評価が低い、教員間で協力しながら伸びていければよい。 ・読書ビンゴは、楽しみながら本に親しむことができるよい取組だと思う。 ・漢字・計算コンクールには、積極的に取り組んでいる。今後もぜひ継続してもらいたい。できれば実施回数を増やしてもらいたい。 <生活習慣について> ・規則正しい生活に対する評価が低い、子どもにとって大切なことである。地域と保護者のつながりが課題となる。 ・民生委員として行うあいさつ運動で、子どもから返される言葉に癒やされている。 ・元気アップカードやミニメディアデーの取組は、子どもと話す機会となりよかった。 ・地域のあいさつビンゴは、子どもと保護者の意識が高まるきっかけとなるので、ぜひ実施してほしい。					<心の健康について> ・「相談できる人がいない」「ストレス対処法を知らない」と答えた児童が、自分を追い詰めてしまわないように、「心の天気」をもつと活用する、外部の方に協力を仰ぐとよい。 <運動面について> ・運動が苦手な子も、ランニングカードが進むのが楽しみで積極的に取り組んでいた、ぜひ継続してほしい。 <その他> ・自己評価書は、保護者・地域に広めることが大切なので、評価が低くてもよいのでは。 ・保健だよりや校長室だより、子どもの声が載っていたり子どもからの返信があることで、心のつながりがもてるのがよい。 ・教職員間の仲がよいことがとてもよい。どの教師にも相談ができてよい。 ・通知表の評価に関して、どこをどのようにがんばればよくなるかについて、本人への声かけをして教えてほしい。				